

## 資料 4

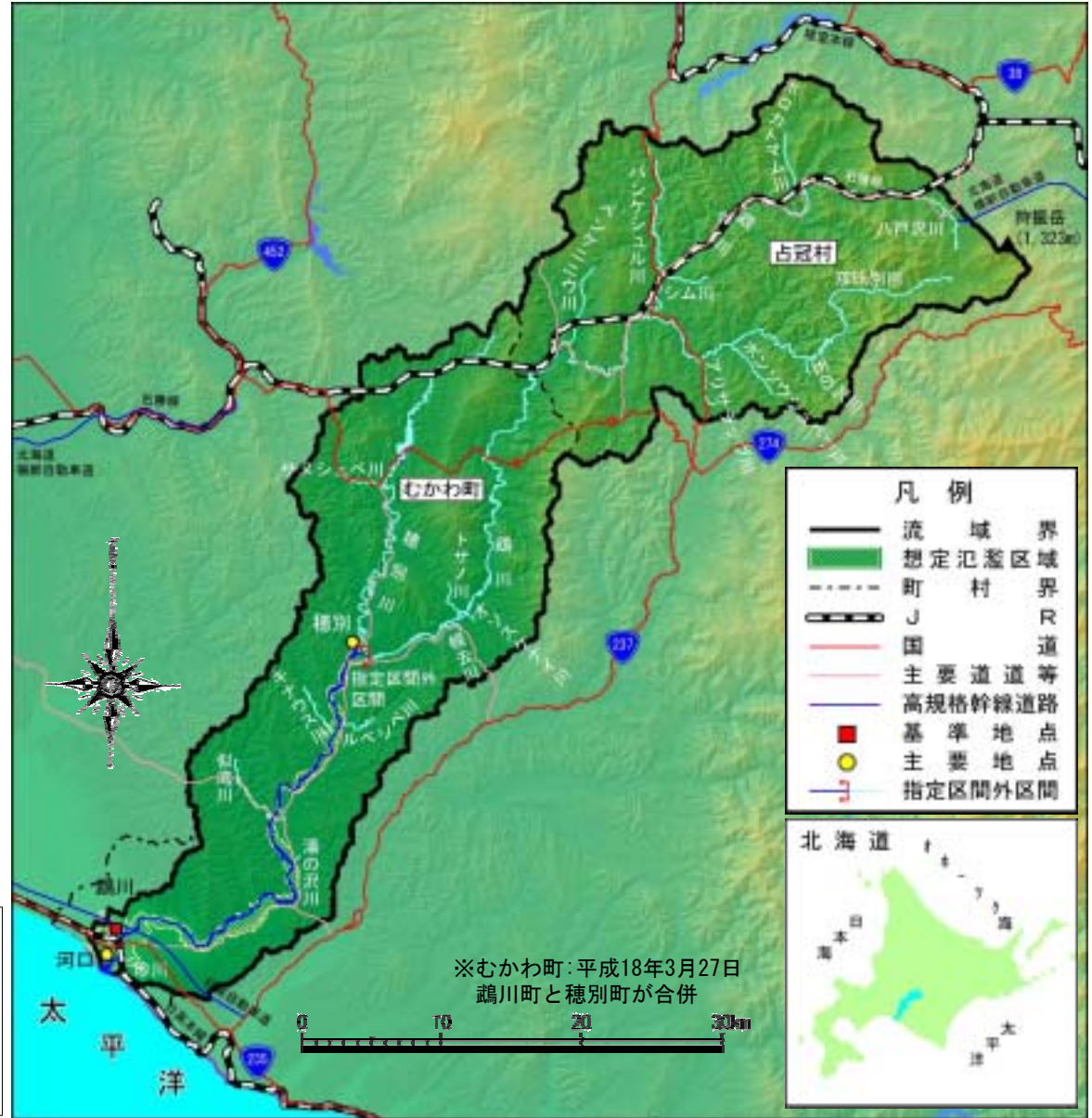
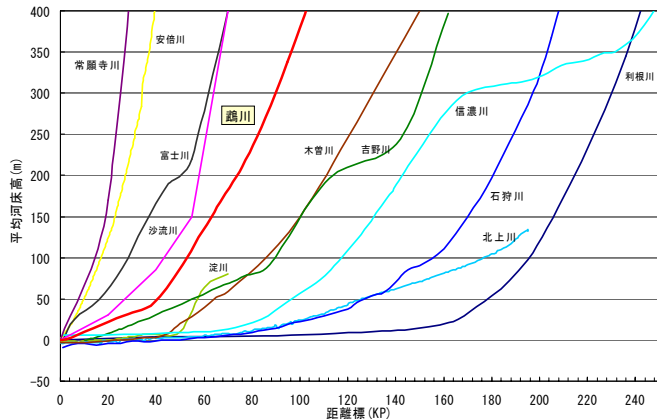
# 流域及び河川の概要

---

# 流域及び河川の概要

- ◆ 流域形状は南北に細長く、上流部は河床勾配約1/150～の急流河川、中流部は両岸に山地・農地が近づき、下流部の氾濫原に市街地・農地等の資産が集積
- ◆ 下流部には北海道の太平洋沿岸に生息し北海道レッドデータブックの地域個体群に指定されているシシャモの自然産卵床がみられる
- ◆ 河口の干潟はシギ・チドリ類などの渡り鳥の重要な中継地となっている

流域面積(集水面積)	1,270km <sup>2</sup>
幹川流路延長	135km
流域内市町村数	1町1村 (むかわ町、占冠村)
流域内市町村人口	約1.2万人 (平成17年国勢調査に基づく算定値)

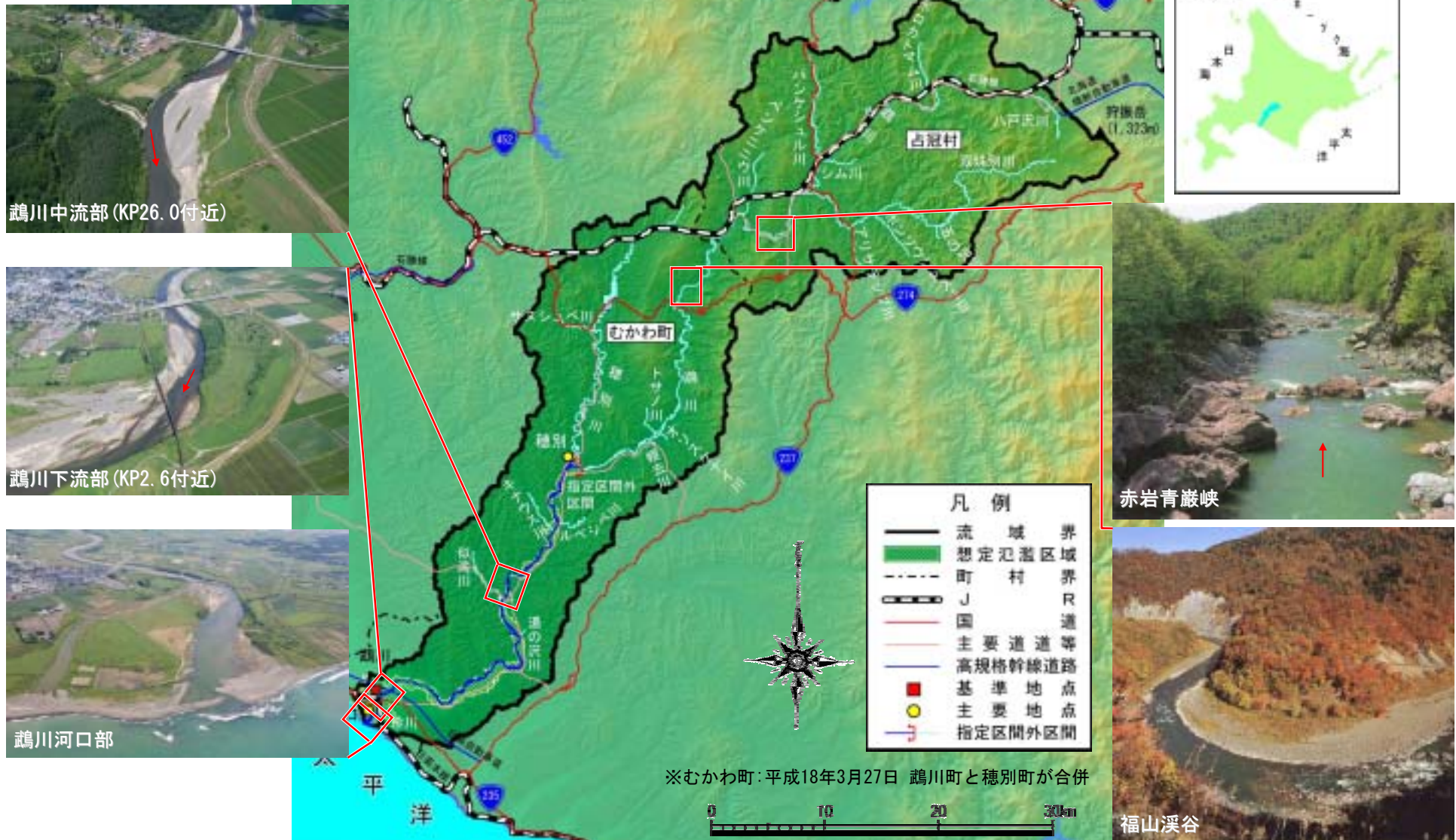


鷗川流域図



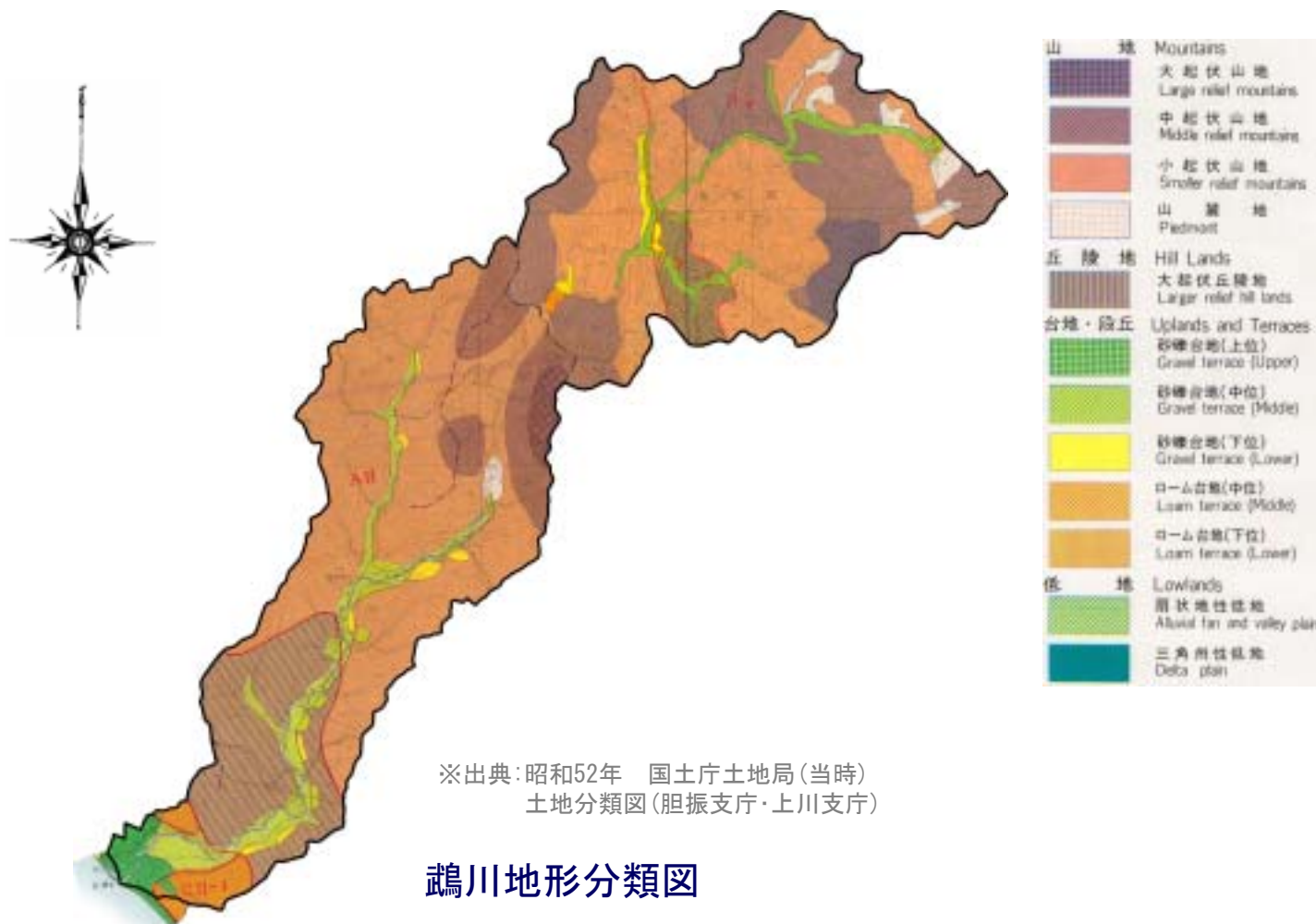
# 流域の地形的特徴

- ◆ 鷓川は、その源を占冠村の狩振岳(標高1,323m)に発し、占冠村においてパンケシュル川、双珠別川等を合わせ、赤岩青巖峡を流下し、むかわ町穂別において穂別川を合わせ、むかわ町市街地を経て太平洋に注ぐ



# 流域の地形

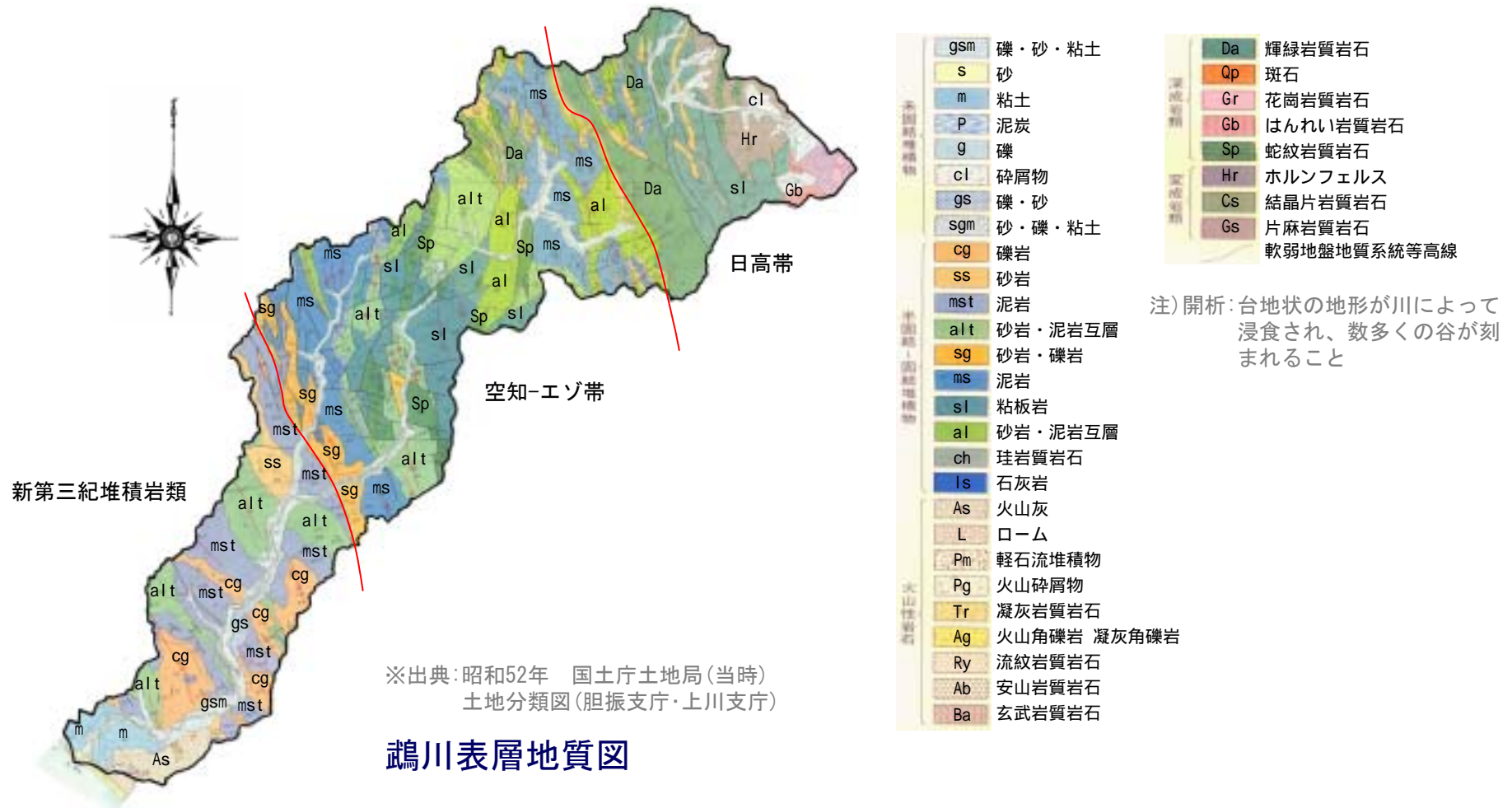
- ◆ 鷓川流域は、日高山脈北部、石狩勇払低地帯の南東部にかけて北東-南西方向に広がって位置する
- ◆ 占冠村付近流域は日高山脈の北端部にあたり、占冠山地と呼ばれる山地である
- ◆ むかわ町穂別付近流域は、その大半が勇払山地に含まれる
- ◆ むかわ町鷓川付近流域は、勇払山地の西南方に位置する勇払丘陵が大半を占めている
- ◆ 河口付近の下流域は勇払低地と呼ばれる低地である





# 流域の地質

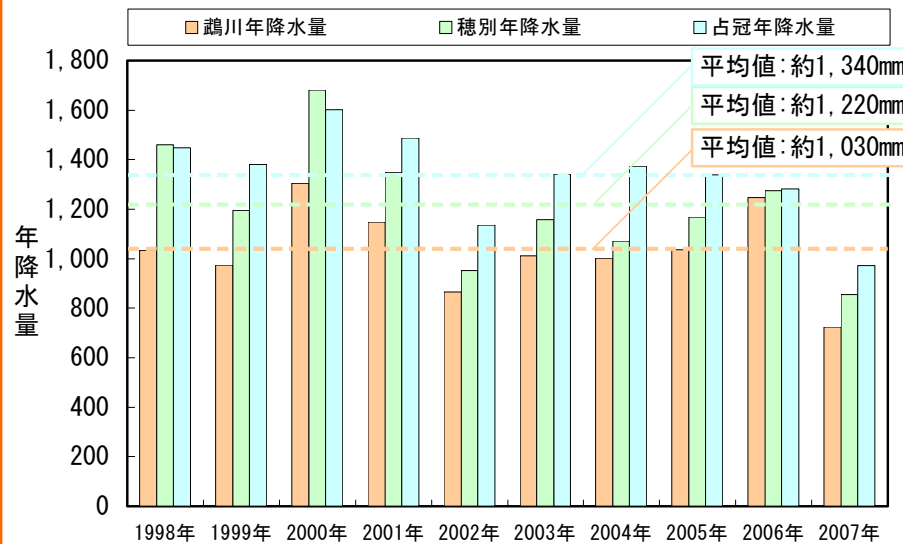
- ◆ 流域の地質は、上流部より日高帯、空知-エゾ帯、新第三紀堆積岩類が分布する
- ◆ 日高帯は日高山脈を構成する地質帯で、白亜紀から古第三紀の堆積物および変成岩類・深成岩類などからなる
- ◆ 空知-エゾ帯はジュラ紀～白亜紀の堆積物で、砂岩・泥岩が主に分布する。また、一部に蛇紋岩などの変成岩類が分布する。エゾ累層群の泥岩類は軟質で開析<sup>注)</sup>の進んだ山地を形成する。また蛇紋岩は地すべりや斜面崩壊を起こしやすい
- ◆ 新第三紀の堆積岩類は、礫岩・砂岩・泥岩からなる。これらは比較的軟質で、起伏の少ない山地を形成する



# 流域の気象状況

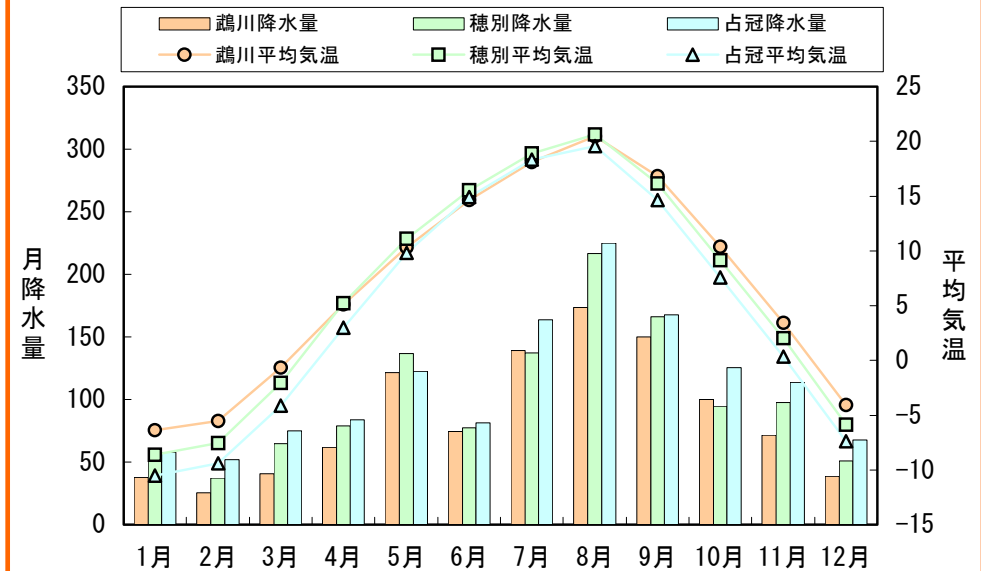
- ◆ 鵜川流域は、太平洋西部気候区(表日本型)に属する
- ◆ 南北に細長い形状を示し標高差も大きいことから、上流部約1,340mm、下流部約1,030mmと年間降水量等は大きく変化する。流域の平均年間降水量は約1,200mm(全道平均約1,110mm)

### 鵜川流域の平均年間降水量



出典: 気象庁ウェブサイト「電子閲覧室」による  
統計期間(1998年~2007年)

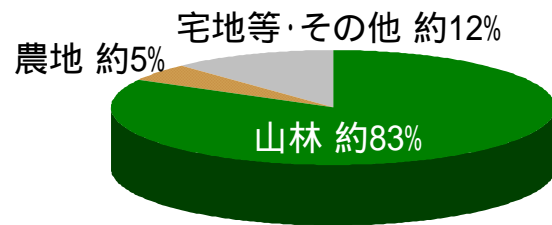
### 月別降水量と月平均気温



出典: 気象庁ウェブサイト「電子閲覧室」による  
統計期間(1998年~2007年)

# 流域の土地利用（現況）

- ◆流域の土地利用は、山林が約8割を超え、森林資源等に恵まれている
- ◆中下流部は農耕地として明治初期からひらけ、その豊かな水は主に農業用水として活用され、特に下流の平野部は稲作地帯として発展してきた
- ◆川沿いに宅地が点在しており、災害時の避難経路は限られている



※出典：平成17年北海道市町村勢要覧

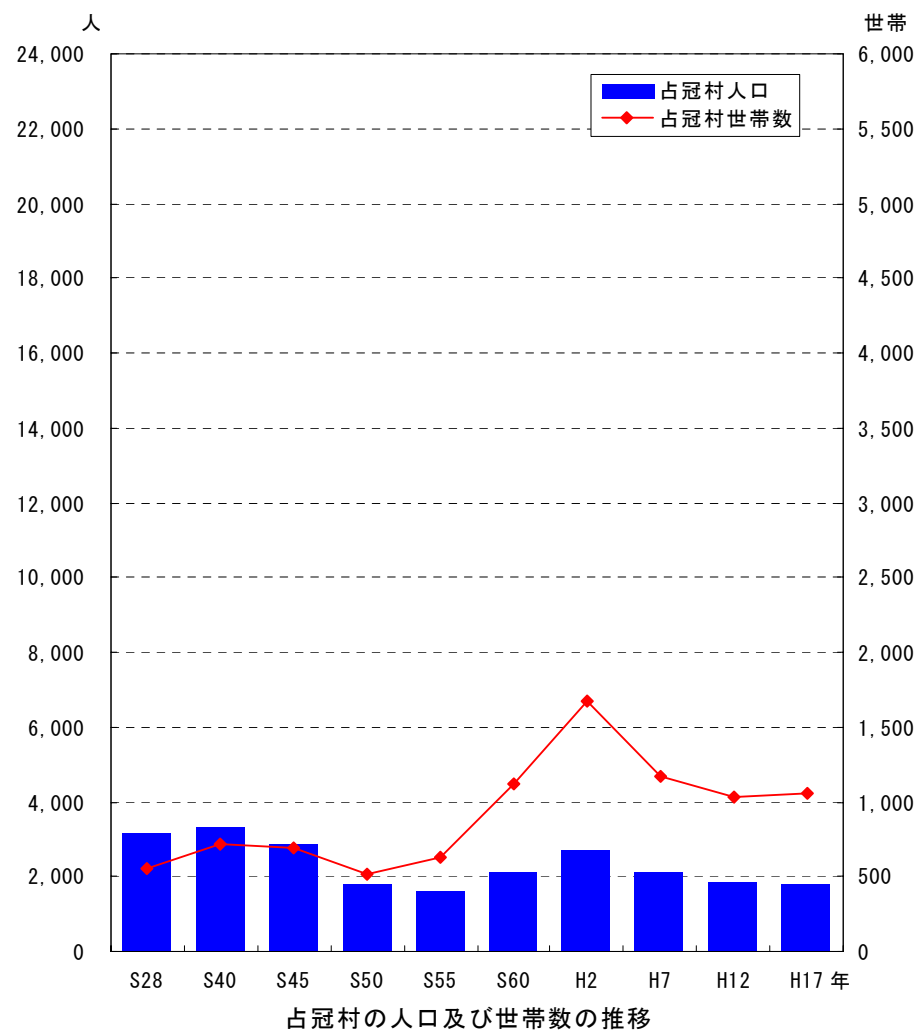
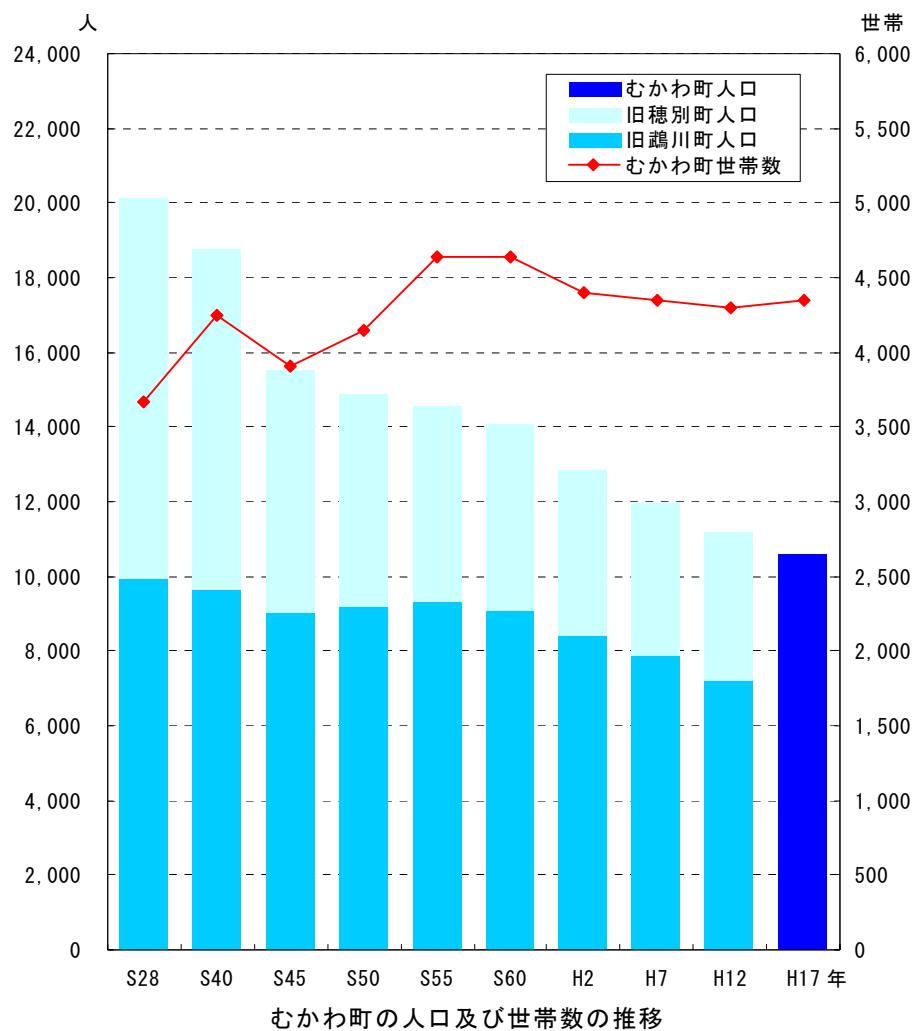
## 地目別土地利用の割合 (流域内市町村計)



※国土数値情報 平成9年 土地利用メッシュ (L03-09M) を使用して作成

# 鷓川流域の発展

◆鷓川流域は、むかわ町、占冠村の1町1村からなり、流域内人口は約1.2万人である



※むかわ町：平成18年3月27日鷓川町と穂別町が合併  
 ※平成12年までのむかわ町世帯数は旧鷓川町と旧穂別町の合計

※出典：昭和28年～平成17年国勢調査より



# 鷓川流域の交通網

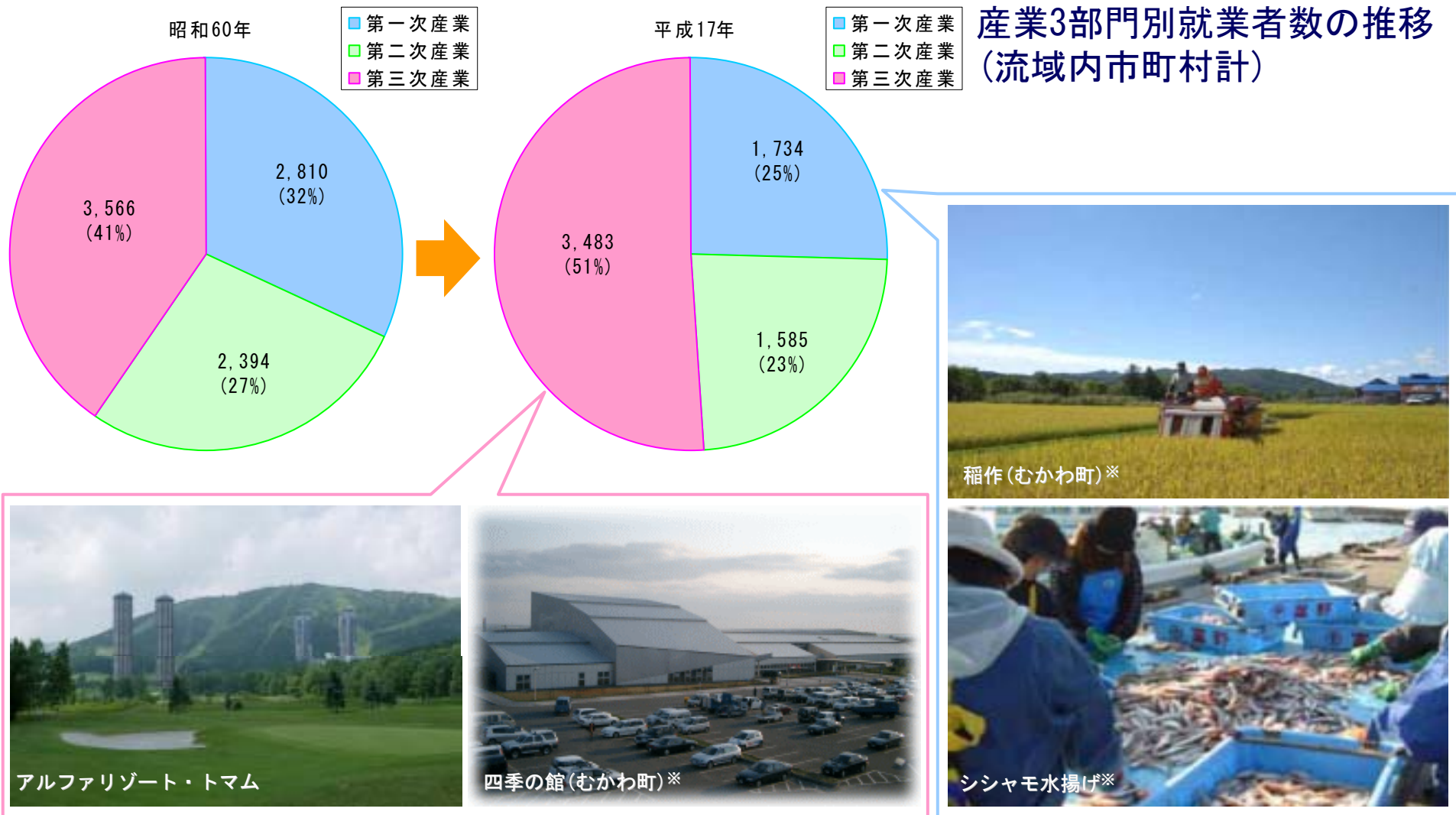
- ◆鷓川流域には、JR日高本線、JR石勝線、国道235号、274号、237号の基幹交通施設に加え、北海道横断自動車道や日高自動車道が整備中である。また、流域の近郊には新千歳空港や特定重要港湾注)である苫小牧港等があり、交通の要衝となっている



注) 特定重要港湾: 国際海上輸送網又は国内海上輸送網の拠点となる港湾、その他の国の利害に重大な関係を有する港湾で政令により定められているもの(重要港湾)のうち、国際海上輸送網の拠点として特に重要で政令で定められているもの

# 鵜川流域の産業①

- ◆ 第一次産業は流域自治体の基幹産業であるが、近年は観光施設等の開業により第三次産業の割合が増加している

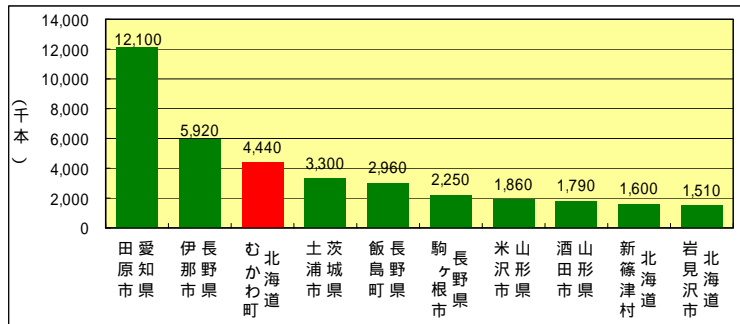


※写真出典:むかわ町商工会ウェブサイト

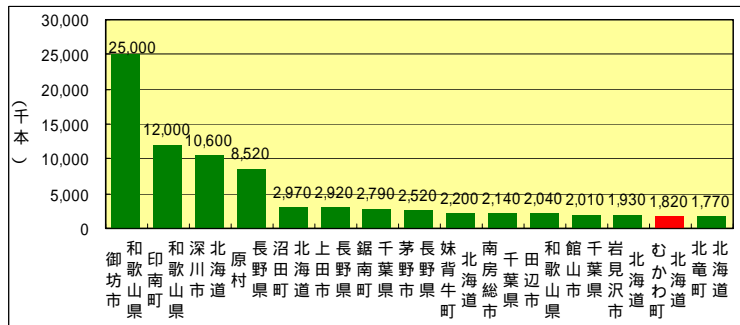
※写真出典:むかわ町勢要覧2006「ムッカペツ」

# 鵡川流域の産業②

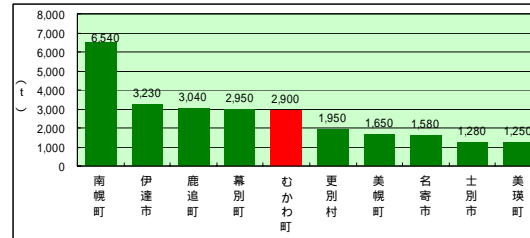
- ◆ 鵡川の中下流部は農耕地として明治初期からひらけ、花卉栽培は全国有数の産地となっている
- ◆ 現在は稲作に加えて野菜や肉牛などを取り入れた複合経営が定着しており、道央圏を中心に道内各地に多く出荷されている



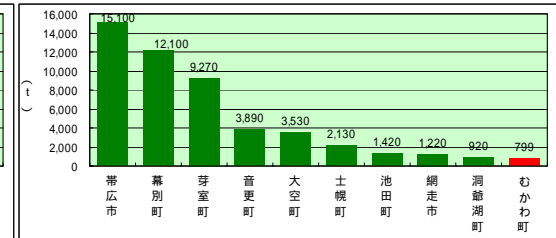
市町村別アルストロメリア出荷量(上位10市町村、平成17年度)



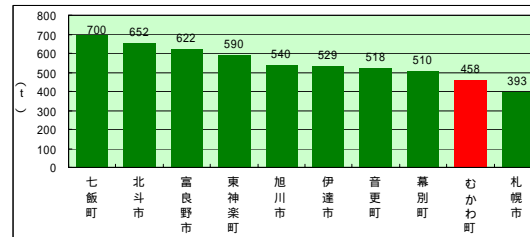
市町村別スターチス出荷量(上位15市町村、平成17年度)



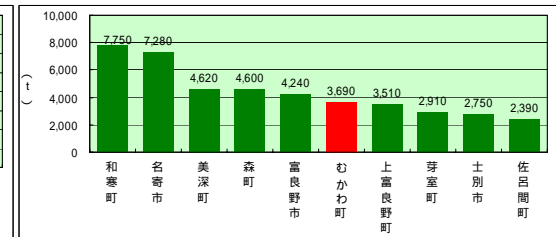
道内市町村別夏秋キャベツ出荷量(上位10市町村、平成17年度)



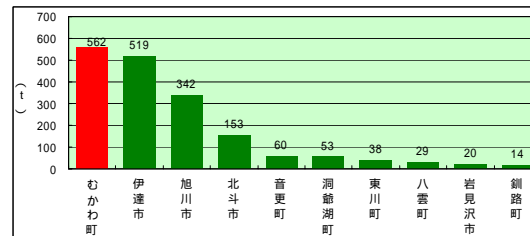
道内市町村別やまのいも出荷量(上位10市町村、平成17年度)



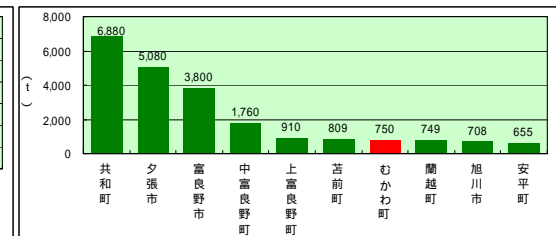
道内市町村別ほうれんそう出荷量(上位10市町村、平成17年度)



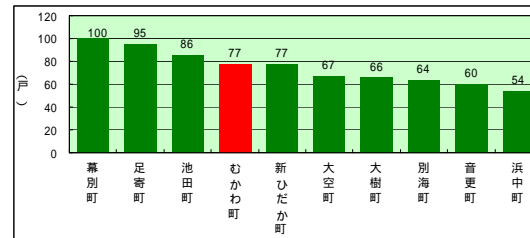
道内市町村別かぼちゃ出荷量(上位10市町村、平成17年度)



道内市町村別春レタス出荷量(上位10市町村、平成17年度)



道内市町村別メロン出荷量(上位10市町村、平成17年度)



道内市町村別肉用牛飼養戸数(上位10市町村、平成17年度)

※出典:農林水産省統計部 統計情報データベース



# 鵒川流域の産業③

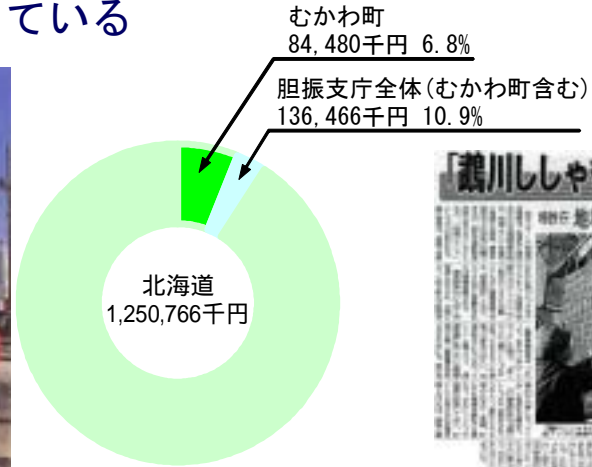
◆ 鵒川漁協におけるシシャモの最近10カ年(H8~H17)の漁獲量は、41~170tであり、年平均100t程度である。また、鵒川のシシャモは「鵒川ししゃも」として、平成18年10月に商標登録の認定を受けており、地域の主要特産物として一層期待が高まっている



写真提供:むかわ町



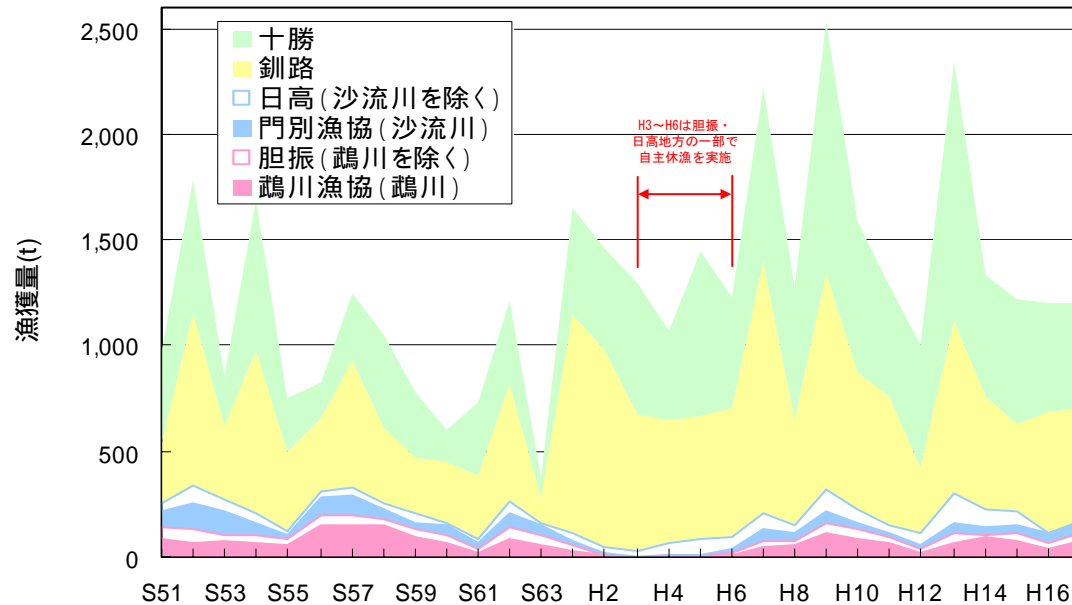
シシャモのすだれ干し



北海道シシャモ生産高

※出典:平成17年北海道水産現勢 苫小牧民報(平成18年10月28日)(北海道水産林務部)

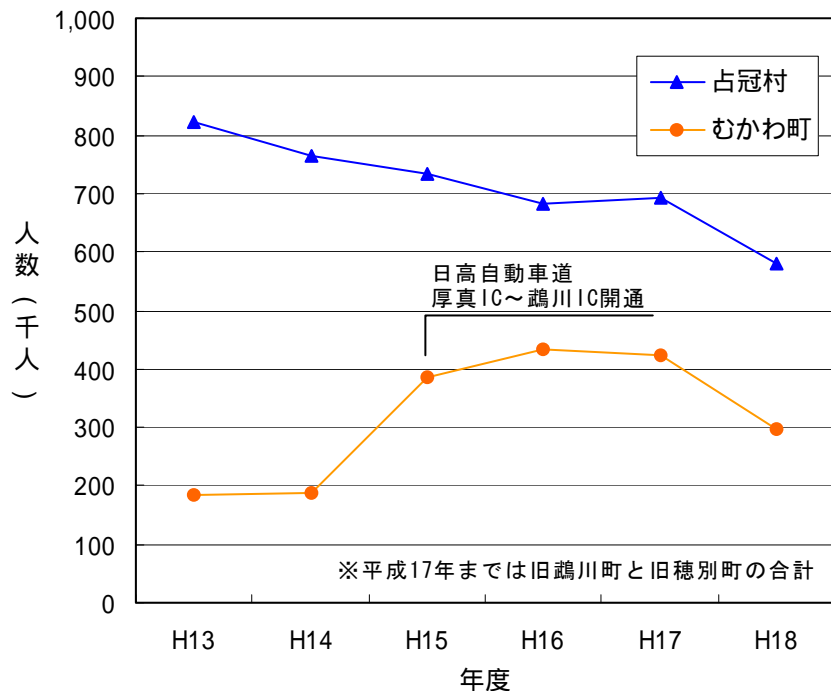
北海道シシャモ漁獲量



# 鷓川流域の産業④

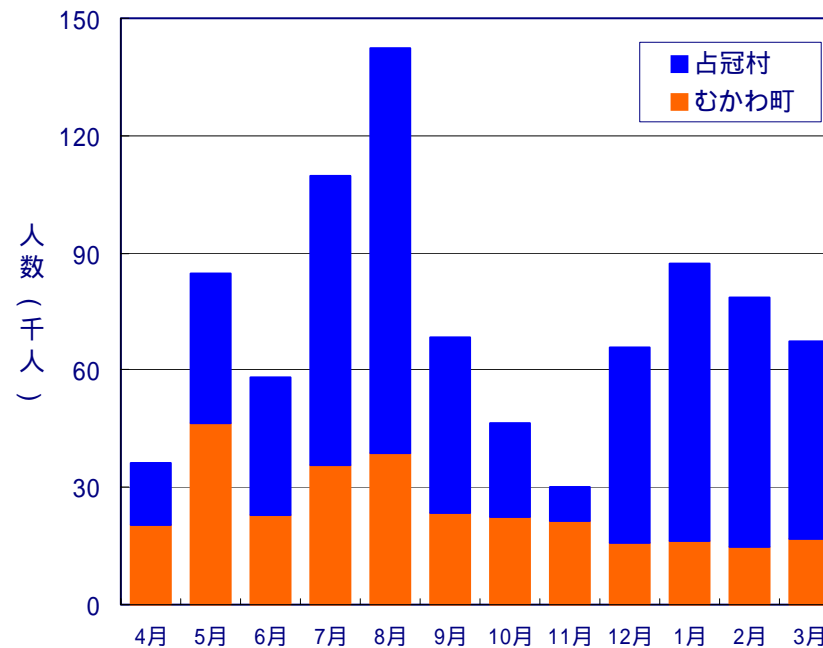
◆1年を通して多くのイベントが開催され、約87万人の観光客が訪れる

流域内町村別観光入込客数



※出典：北海道経済部観光局「北海道観光入込客数調査報告書」平成13～18年度版  
※むかわ町：平成18年3月27日鷓川町と穂別町が合併

平成18年度 月別観光入込客数



※出典：北海道経済部観光局「北海道観光入込客数調査報告書」平成18年度版



# 鷓川の開拓の歴史

- ◆ 鷓川の名前の由来はアイヌ語の「ム・ペツ」であり、「ふさがる川」という意味と言われている
- ◆ 流域への和人の入植は、旧鷓川町が早く1800年(寛政12年)で、旧穂別町が1800年代の後半、占冠村が1900年代となっている
- ◆ 肥沃で温暖な鷓川の流域には、明治中期以降、本州からの開拓民が次々と入植し、農地を開いていった。下流の旧鷓川町では早くから稲作が試されており、鷓川の豊かな水が活用され、道内指おりの稲作地帯として発展した。また上流で伐採された製紙用丸太は鷓川河口に向かって流送された
- ◆ 鷓川の流域には、相当古い年代から多くのアイヌの人々が定住していたと言われている。また明治時代も地名はアイヌ語で統一されていた。現在までアイヌの歴史・文化が保全されてきている



イヨマンテ(くま送り)風景 (新穂別町史)



原木の流送風景〔大正末期〕(新穂別町史)



生田付近の用水路及び開田状況〔大正4年当時〕  
(鷓川土地改良区史)



- ◆ 鶴川流域には古くからアイヌの人々が先住し、その伝統・文化は、民族伝承の歌や踊りであるアイヌ古式舞踊や豊漁を祈願する儀式であるシシャモカムイノミ等として、今日まで受け継がれている
- ◆ シシャモの名前の由来は、アイヌ語の「スス・ハム」(柳の葉)と言われており、アイヌの人々の間では、神が柳の葉に魂を入れて魚にしたと語り継がれている



シシャモカムイノミ



アイヌ古式舞踊

# 既往の主要洪水の概要

発生年月	原因	雨量注 <sup>1</sup> (mm)	鷓川地点 流量(m <sup>3</sup> /s)	被害等注 <sup>2</sup>
明治31年9月6日	台風	不明	不明	胆振支庁の勇払・白老・幌別・室蘭の4郡に被害。鷓川死者31人、流失家屋160戸
明治37年7月9～12日	台風・前線	不明	不明	道路冠水深0.9m
大正11年8月24～25日	台風	苫小牧83	3,600	胆振支庁管内、死者8人、行方不明2人、負傷者1人、家屋流失61戸、同浸水1,614戸、田浸水1,900ha、畑同3,464ha
昭和10年8月29～30日	台風	不明	不明	死傷者13人、流失家屋14戸、浸水家屋199戸
昭和30年7月3日	低気圧・前線	日高85	不明	穂別町上和泉地区・鷓川町有明地区・米原地区一帯氾濫。穂別町死者2人
昭和36年7月26日	前線	鷓川45	1,034	鷓川町床上浸水30戸。穂別町死者2人、負傷者2人、家屋全壊1戸、家屋流出1戸、床上浸水2戸、床下浸水27戸、農地被害12.0ha。占冠村死者1人、行方不明1人、床上浸水25戸、床下浸水80戸
昭和37年8月4日	台風9号	163	1,694	鷓川町床上浸水39戸、床下浸水328戸、田被害7.0ha、畑被害1.5ha。穂別町死者1人、家屋半壊4戸、家屋流出4戸、床上浸水105戸、床下浸水113戸、田被害21.5ha、畑被害7.5ha。占冠村死者1人、行方不明2人、負傷者1人、家屋全壊8戸、家屋流出12戸、床上浸水230戸、床下浸水72戸、畑被害120.0ha
昭和50年8月24日	台風6号・前線	129	1,929	鷓川町床上浸水3戸、床下浸水22戸。穂別町床上浸水12戸、床下浸水32戸。占冠村床上浸水8戸
昭和56年8月5日	前線・台風12号	164	1,562	鷓川町死者1人、家屋全壊1戸、床上浸水12戸、床下浸水77戸、田被害0.5ha、畑被害7.0ha。穂別町負傷者1人、床上浸水2戸、床下浸水6戸、田被害20.0ha、畑被害4.3ha
平成4年8月7～9日	台風10号・低気圧	188	2,991	鷓川町床上浸水6戸、床下浸水39戸、田被害10.35ha。穂別町床上浸水16戸、床下浸水78戸、田被害93.29ha、畑被害5.01ha。占冠村床上浸水6戸
平成10年8月28日	低気圧・前線	182	1,773	鷓川町床上浸水1戸。穂別町床上浸水9戸
平成13年9月11～13日	台風15号・前線	214	2,773	穂別町床上浸水1戸、床下浸水2戸
平成15年8月8～10日	台風10号・前線	198	2,588	穂別町床上浸水2戸、畑被害15ha
平成18年8月18～19日	前線	248	2,194	むかわ町床上浸水5戸、床下浸水68戸、田被害37.0ha、畑被害28.0ha

※選定基準は、昭和36年までは「鷓川沙流川治水史」に記載の主要洪水、昭和37年以降は鷓川地点ピーク流量1,500m<sup>3</sup>/s以上の洪水。

注1) 雨量は、昭和36年以前は「鷓川沙流川治水史」に記載の1日雨量、昭和37年以降は鷓川地点上流域での流域平均24時間雨量。

注2) 明治31年～昭和30年の被害等は「鷓川沙流川治水史」による。昭和36年～平成10年、15年の被害等は「北海道災害記録」による、鷓川町と穂別町、占冠村の値。平成13年の被害等は「水害統計」による。平成18年の被害等は洪水報告書(室蘭開発建設部)による速報値。

※北海道災害記録による被害等は集計上、支川、内水被害等を含む。

【平成4年8月】台風から変わった温帯低気圧の影響により、降雨量は鷓川で186mm/日を記録。鷓川地点では戦後最大流量の2,991m<sup>3</sup>/sを記録



穂別市街部



むかわ町市街部

【平成18年8月】停滞前線の影響により、降雨量は鷓川で320mm/日を記録

※戦後、流量・雨量が大きい4洪水を記載



【平成13年9月】前線の影響により、降雨量は鷓川で236mm/日を記録



道道米原田浦線

【昭和37年8月】台風の影響により、降雨量は鷓川で89mm/日を記録。穂別町、鷓川町の随所で氾濫



いくべつ 生龍橋 (現旭生橋)



# 平成4年8月洪水 被災状況



凡 例  
 浸水域

浸水面積:3.45km<sup>2</sup>





# 平成18年8月洪水 被災状況



## ～戦前

- ◆ 鵜川流域開拓のはじまり  
農林業適地として明治後期から本州の開拓農民が入植  
→本格的な治水対策はとられていなかった
- ◆ 北海道第二期拓殖計画（昭和2年～21年）  
部分的な護岸などの小規模な低水路工事にとどまる

## 戦後～

- ◆ 治水事業の着手  
昭和23年に国費応急河川改修費で豊城築堤工事に着手
- ◆ 計画流量決定  
昭和25年に計画高水流量を3,600m<sup>3</sup>/s(鵜川基準点)とする鵜川改修計画を策定
- ◆ 直轄河川改修に着手  
昭和26年より河口～仁和までの区間について築堤、掘削等に着手
- ◆ 工事実施基本計画の策定  
昭和42年に一級河川に指定され、同年に工事実施基本計画を策定
- ◆ 鵜川水系河川整備基本方針の決定  
平成9年の河川法改定を受け、平成19年11月に決定

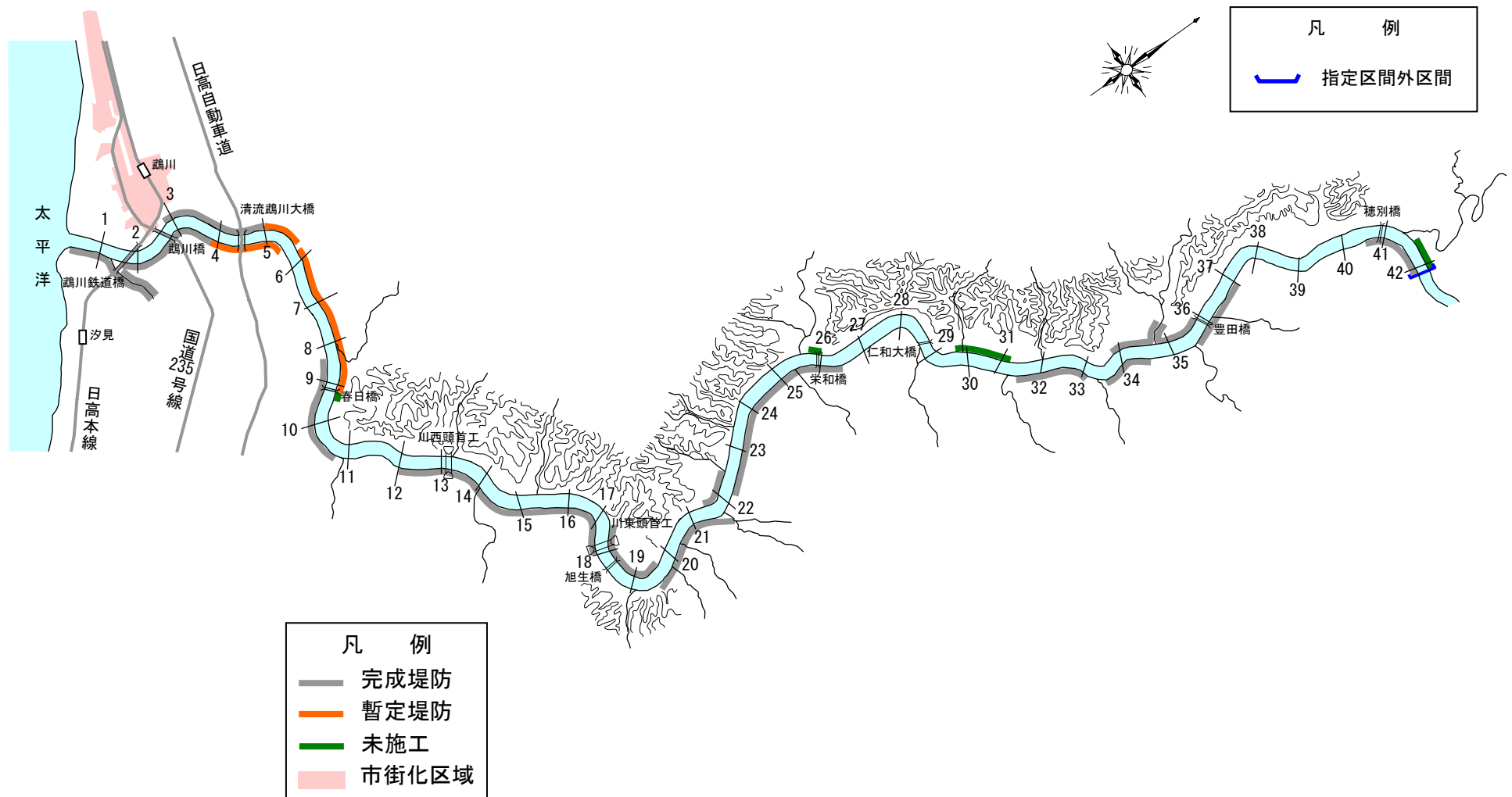


# 鷓川の治水の沿革②

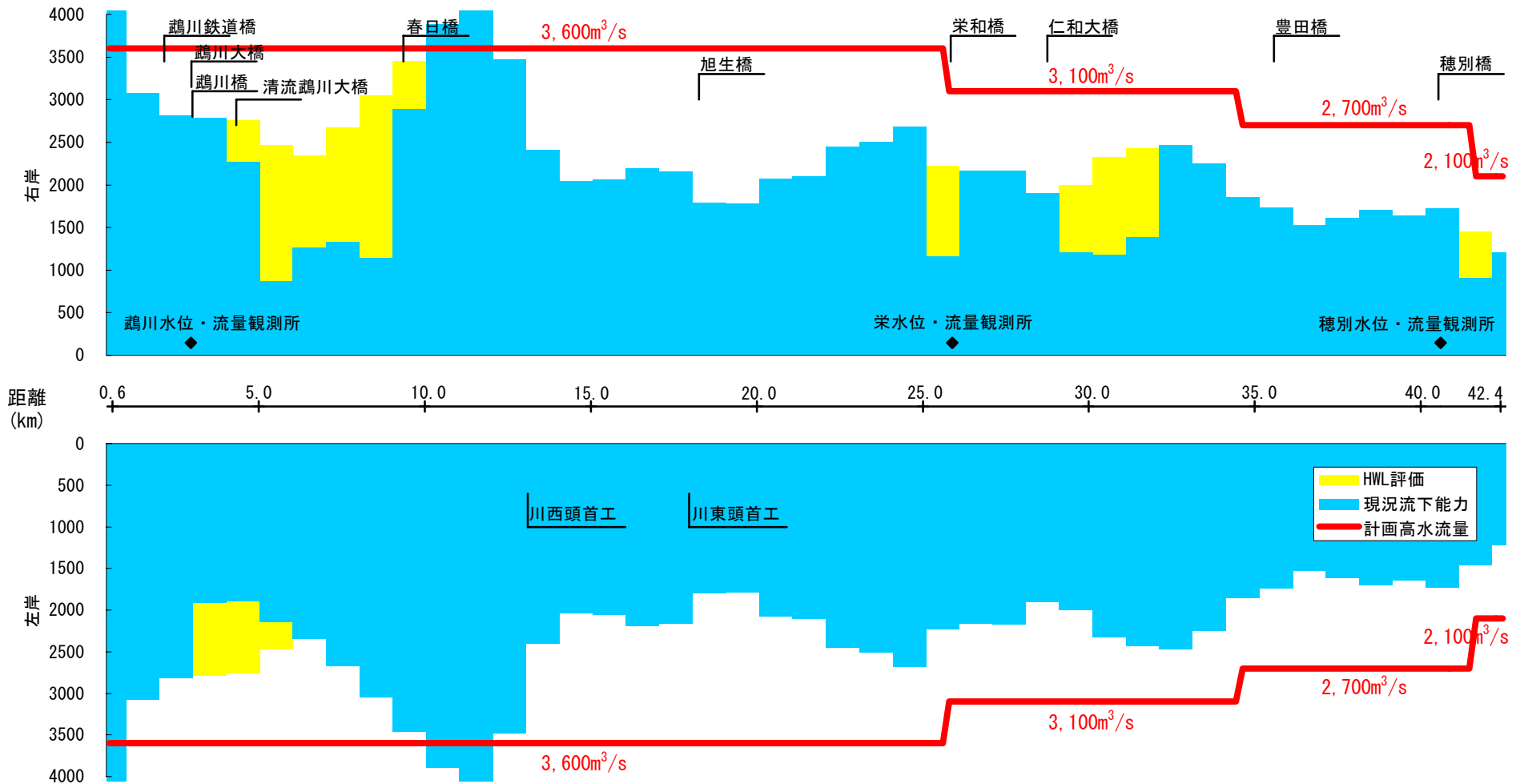
年代	1901～	1911～	1921～	1931～	1941～	1951～	1961～	1971～	1981～	1991～	2001～	
洪水の発生	1904 (M37)		1922 (T11)	1935 (S10)		1955 (S30)	1961 (S36) 1962 (S37)	1975 (S50)	1981 (S56)	1992 (H4)	1998 (H10)	2001 (H13) 2003 (H15) 2006 (H18)
治水						計画流量：3,600m <sup>3</sup> /s（鷓川基準地点） 1950：鷓川改修計画策定 (S25)		1967：工事実施基本計画策定 (S42)		2007：河川整備基本方針決定 (H19)		
					1948：治水事業の着手 (S23)	1951：直轄河川改修に着手 (S26)		1967：一級河川指定 (S42)				
利水							1961：双珠別 ダム完成 (S36) 1966：川西・川東 頭首工完成 (S41)		1985：穂別 ダム完成 (S60)			

# 鷓川の堤防整備状況

- ◆昭和20年代以降、洪水防御等を目的として築堤工事が進められ、約8割の堤防が完成している



# 鷓川の現況流下能力

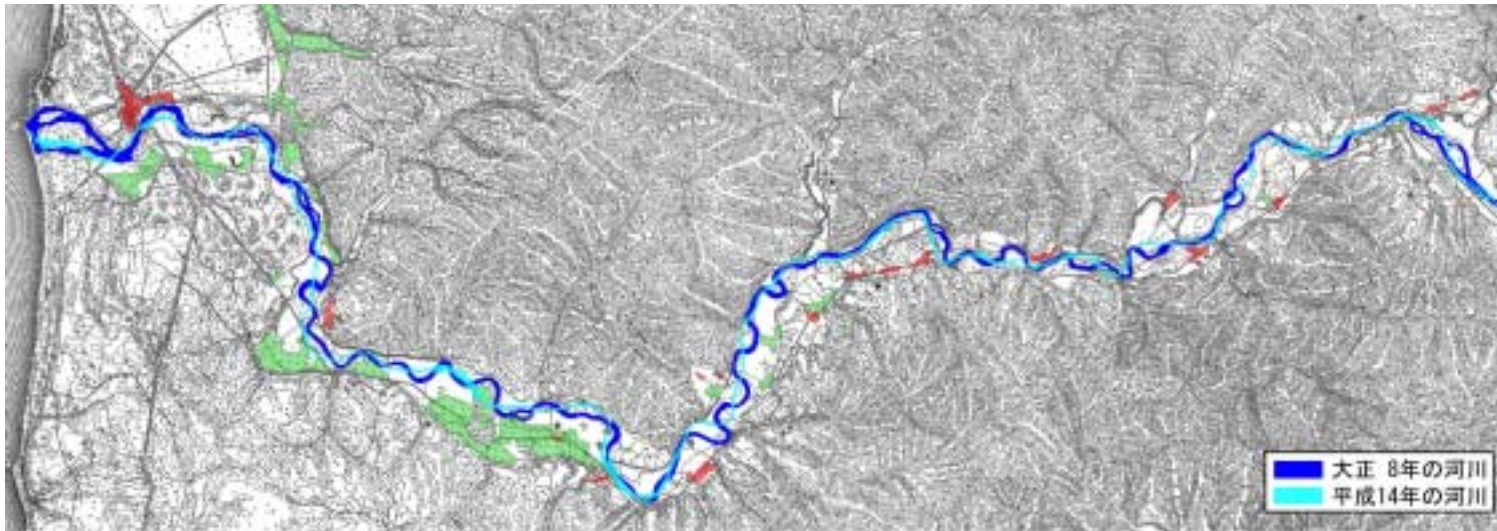




# 治水事業による成果

- ◆ かつては蛇行していた鷲川は、洪水被害の軽減を目的として治水事業を進めてきた
- ◆ その後河道の沿川では、農地や宅地が発達した

大正8年



平成14年



凡例

- 市街地
- 田・畑

※市街地範囲、  
田・畑は5万分の1地形図から  
読みとり

# 主な地震の概要

発生年月日	地震名等	主な市町村の震度 <sup>注1)</sup>	M (マグニチュード)	地震被害等
1952年 (昭和27年) 3月4日	十勝沖地震	【震度5】 浦河町ほか	8.2	重軽傷10名 住宅被害等148棟 <sup>注2)</sup>
1968年 (昭和43年) 5月16日	十勝沖地震	【震度5】 苫小牧市ほか	7.9	重傷2名、軽傷8名 住宅被害等47棟 <sup>注3)</sup>
1993年 (平成5年) 1月15日	釧路沖地震	【震度6】 釧路市	7.5	軽傷1名 <sup>注2)</sup>
1994年 (平成6年) 10月4日	北海道東方沖	【震度6】 釧路市ほか	8.2	—
2003年 (平成15年) 9月26日	十勝沖地震	【震度6弱】 新冠町ほか	8.0	重傷2名、軽傷9名 住宅被害等7棟 <sup>注2)</sup>

※発生日時、震源、震度、マグニチュードは、気象庁ウェブサイト「震度データベース検索」による

注1) 鶴川流域内においては観測の記録なし

注2) 出典: 1968年十勝沖地震調査報告(1968年十勝沖地震調査委員会、1969. 3)

注3) 出典: 災害記録(北海道)

# 地震の被害状況

## ■昭和27年十勝沖地震



豊城築堤の亀裂

## ■昭和43年十勝沖地震



豊城築堤 十勝沖地震における堤防のすべり破壊



豊城樋門

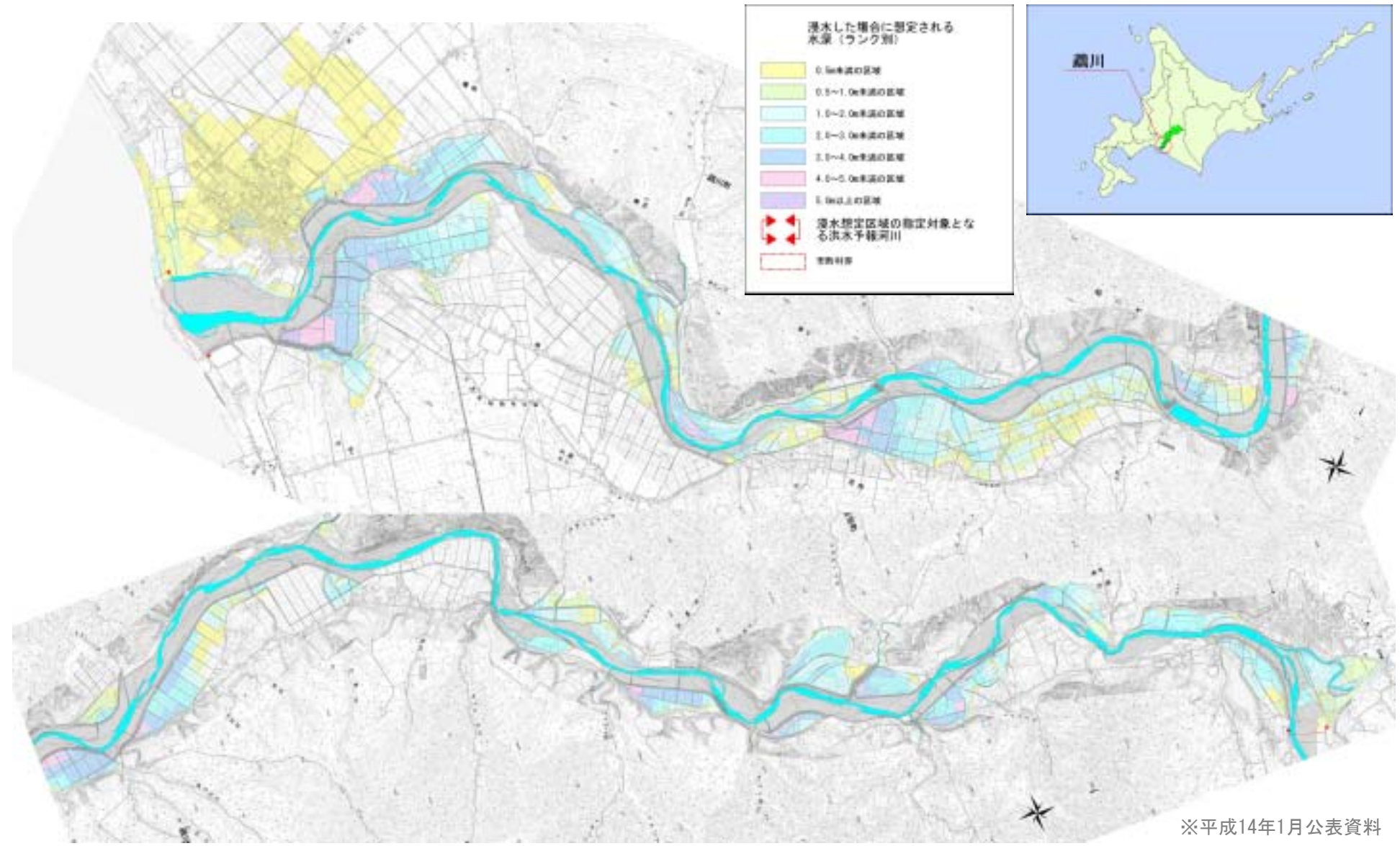


豊城地区堤防天端の亀裂



# 鷓川 浸水想定区域図

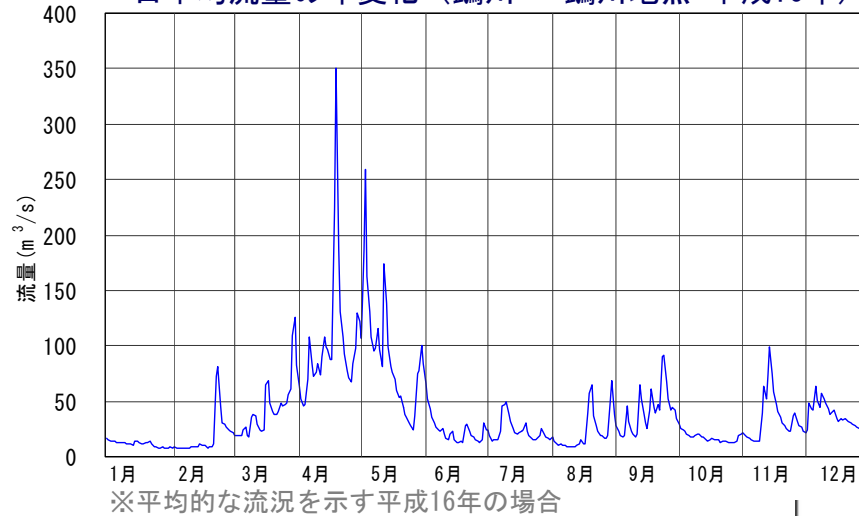
◆現在の河道状況において、計画規模の洪水(鷓川基準点で3,600m<sup>3</sup>/s)で鷓川が氾濫した場合に想定される浸水状況



# 鷓川の流況

- ◆ 鷓川の流況は、3月下旬から5月にかけての融雪期に流量が豊富であり、8月から9月にかけて出水により流量が増加するが、降雪期である12月から翌年3月までは流量が少なく変動は小さい

日平均流量の年変化（鷓川 鷓川地点 平成16年）



(単位：m<sup>3</sup>/s)

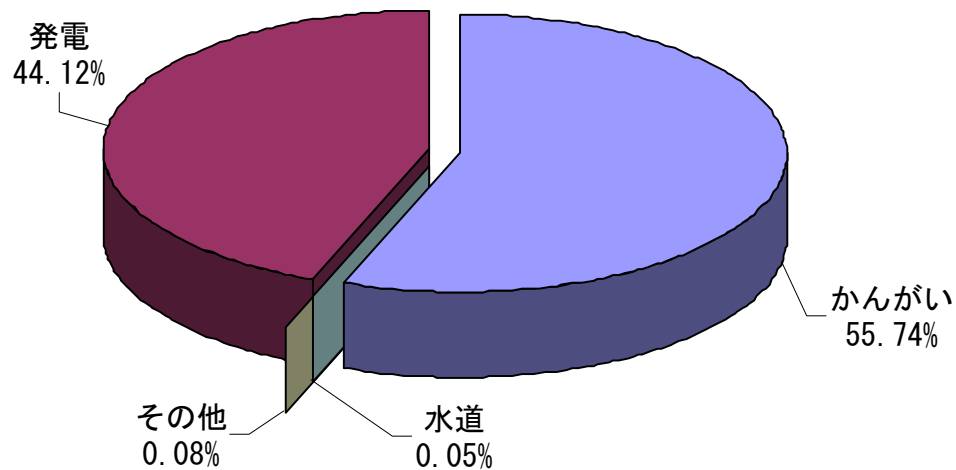
河川	鷓川
地点	鷓川
集水面積 (km <sup>2</sup> )	1,228.0
豊水流量	42.11
平水流量	22.27
低水流量	11.75
渇水流量	6.39
2/20渇水流量	4.03
比流量	0.33
1/10渇水流量	6.24
比流量	0.51

※統計期間S61～H17年の平均値  
 ※豊水流量とは、1年を通じて95日はこれを下回らない流量  
 ※平水流量とは、1年を通じて185日はこれを下回らない流量  
 ※低水流量とは、1年を通じて275日はこれを下回らない流量  
 ※渇水流量とは、1年を通じて355日はこれを下回らない流量  
 ※比流量とは、流域面積100km<sup>2</sup>あたりの流量



# 鵡川の利水の現状

- ◆ 河川水の利用は、かんがい用水、水道用水、発電用水等、多岐にわたっている
- ◆ 河川水の利用については、開拓農民による農業用水の利用に始まり、現在は約3,900haに及ぶ農地のかんがいに利用されている
- ◆ 水道用水は、むかわ町、占冠村に供給されている
- ◆ 水力発電としては、昭和36年に完成した右左府発電所（沙流川流域）に向けて双珠別ダムより送水を行っている



## 鵡川の取水量

※数値は水利権の最大取水量による。

種別	件数	取水量 (m <sup>3</sup> /s)
かんがい用水	191	18.950
水道用水	2	0.018
発電用水	1	15.000
その他 (養魚用水)	1	0.028
計	195	33.996

(平成18年12月現在)



# 発電用水について

- ◆ 鷗川の支川双珠別川では、沙流川からの最大集水量 $11.0\text{m}^3/\text{s}$ と自流分を双珠別ダムに貯留した後、途中支川からの取水をあわせて最大 $15.0\text{m}^3/\text{s}$ を沙流川右左府発電所へ導水している。



- ・ 沙流川流域より取水し、双珠別ダム（双珠別川）に流入後、ダムより導水、各支川より取水し、最大で $15.0\text{m}^3/\text{s}$ を右左府発電所により発電している。

# 鷓川の主な利水施設

◆ 鷓川には、川西頭首工をはじめとしたかんがい施設、発電ダム等の利水施設がある



穂別ダム(農業用利水ダム)



川西頭首工



双珠別ダム(発電用利水ダム)

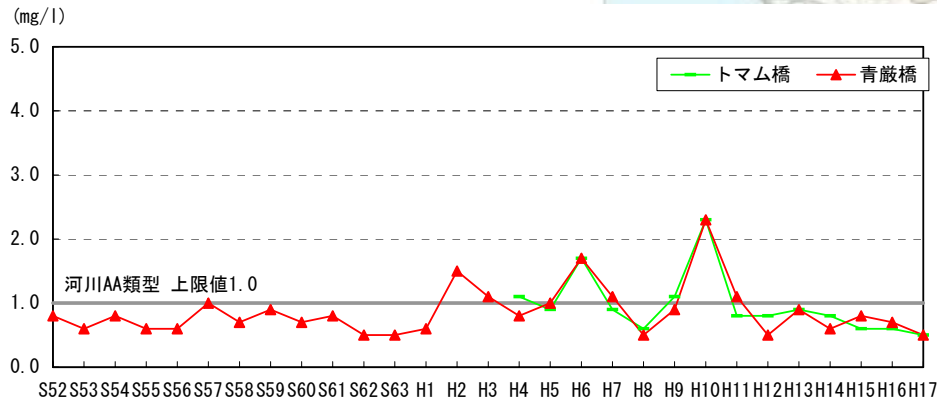


川東頭首工

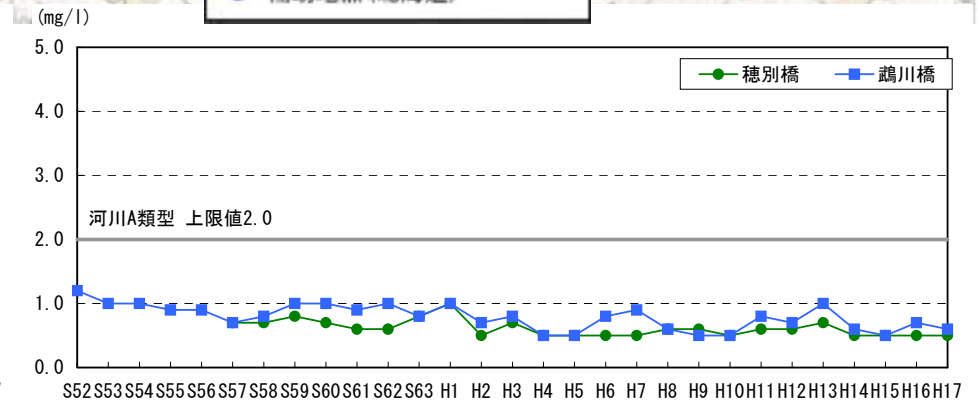


# 鵜川の水質

◆BOD75%値は基準地点において、指定されている環境基準値を概ね満足している



鵜川における水質 (BOD75%値) の経年変化 <AA類型>



鵜川における水質 (BOD75%値) の経年変化 <A類型>

水系名	水域名	該当類型	達成期間	基準地名	備考
鵜川	鵜川上流 (双珠別川合流点から上流)	AA	イ	青巖橋・トمام橋	昭和47年4月1日指定 (道告示第1093号)
	鵜川下流 (双珠別川合流点から下流)	A	ロ	鵜川橋・穂別橋	

※達成期間の「イ」は直ちに達成、「ロ」は5年以内で可及的速やかに達成を意味する。



- ◆ 鵜川は、国土交通省が毎年公表している一級河川の平均水質ランキング<sup>注)</sup> (BOD値) において、平成17年、18年に清流日本一となっており、日本有数の清流河川といえる

## 近年5ヵ年間の全国一級河川の水質ベスト5

※数値はBOD平均値(カッコ内はBOD75%値)

平成14年			平成15年			平成16年			平成17年			平成18年		
順位	河川名		順位	河川名		順位	河川名		順位	河川名		順位	河川名	
1	尻別川	0.5(0.5)	1	後志利別川	0.5(0.5)	1	尻別川	0.5(0.5)	1	尻別川	0.5(0.5)	1	尻別川	0.5(0.5)
	後志利別川	0.5(0.5)		荒川 <sup>注2)</sup>	0.5(0.5)		沙流川	0.5(0.5)		後志利別川	0.5(0.5)		後志利別川	0.5(0.5)
	札内川	0.5(0.5)		豊川	0.5(0.5)		荒川 <sup>注1)</sup>	0.5(0.5)		鵜川	0.5(0.5)		鵜川	0.5(0.5)
	宮川	0.5(0.5)		宮川	0.5(0.5)		荒川 <sup>注2)</sup>	0.5(0.5)		沙流川	0.5(0.5)		沙流川	0.5(0.5)
5	大野川	0.5(0.6)		大野川	0.5(0.5)		宮川	0.5(0.5)		札内川	0.5(0.5)		黒部川	0.5(0.5)
										荒川 <sup>注2)</sup>	0.5(0.5)		安倍川	0.5(0.5)
													宮川	0.5(0.5)
													高津川	0.5(0.5)
													川辺川	0.5(0.5)

20位: 鵜川 0.7(0.6) 6位: 鵜川 0.6(0.5) 11位: 鵜川 0.6(0.6)

※以下の条件を満たす166河川(平成18年時点)を対象として、年間の平均水質によるランキングが公表されている。

- ・一級河川本川：直轄管理区間に調査地点が2地点以上ある河川
- ・一級河川支川：直轄管理区間延長が概ね10km以上、かつ直轄管理区間に調査地点が2地点以上ある河川

なお、湖沼類型指定、海域類型指定の調査地点は含まない。また、ダム貯水池は原則として調査地点に含まない。

注1) 阿武隈川水系(福島)

注2) 荒川水系(新潟)



鵜川(占冠村)



鵜川(むかわ町)



鵜川(むかわ町)

# 水質事故の発生状況

◆ 水質事故の原因のほとんどは油類の流出である

鵜川水系の水質事故一覧（平成14年～18年）

水系名	河川名	水質事故の種類	原因物質の量	発生年月日
鵜川	鵜川	油類	不明	H14. 12. 18
鵜川	鵜川	油類 (軽油)	不明	H15. 7. 19
鵜川	一の沢(モイベツ川の支川)	原油	不明	H15. 8. 19
鵜川	鵜川	油類	約36ℓ	H18. 8. 19

水質事故対策訓練



水質事故に対する取り組み(平成16年度油流出事故対策現地訓練より)

## 【鶴川上流域】（源流～占冠村ニニウ地点付近）

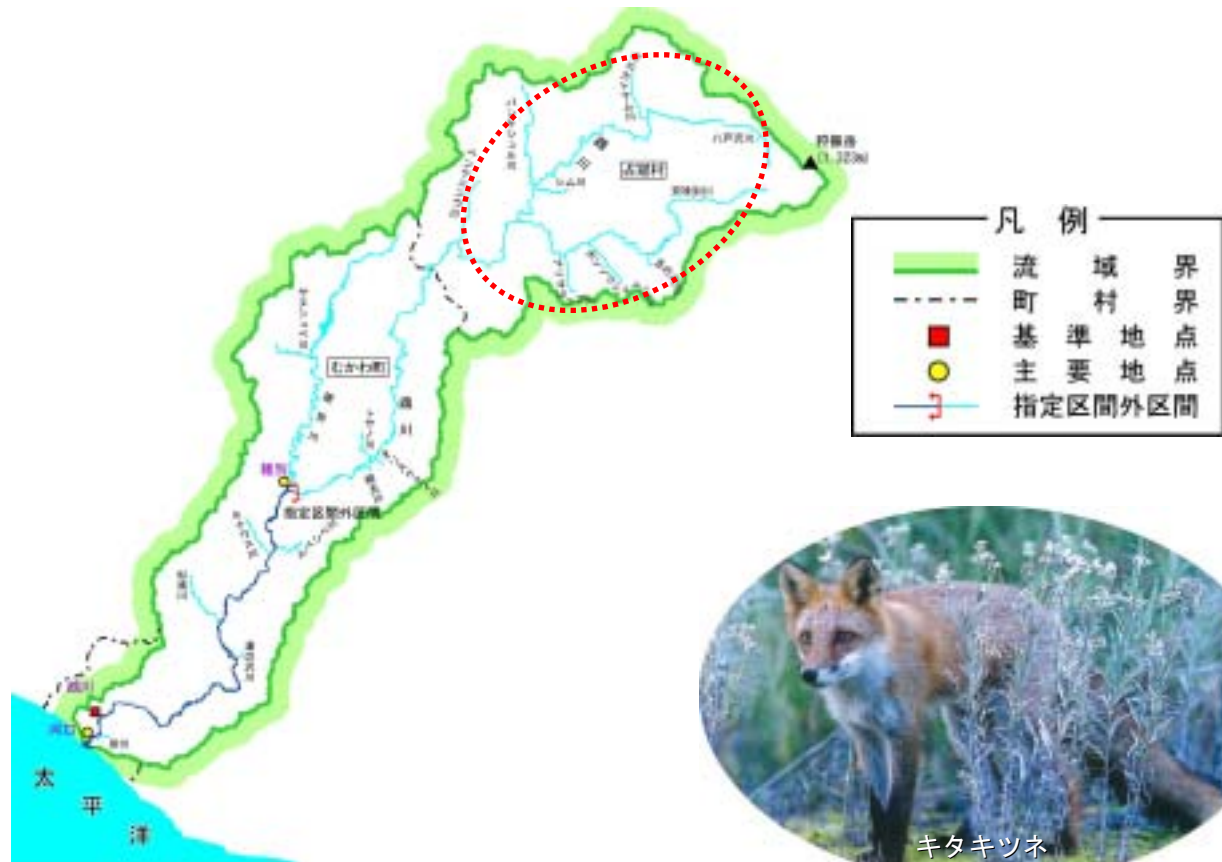
- ◆上流域は山地を流れ、樹林が水際まで分布する。植生は、エゾマツ、トドマツ等の針葉樹林、ミズナラ、エゾイタヤ、シナノキ等の広葉樹林が分布する。哺乳類はキタキツネ、ヒグマ、エゾシカ等が生息し、魚類ではスナヤツメ、フクドジョウ、サクラマス(ヤマメ)等が生息する。



フクドジョウ



サクラマス(ヤマメ)



キタキツネ



## 【鶴川中流域】（占冠村ニニウ地点付近～KP13.0）

- ◆川西頭首工から上流の中流域は、山間を屈曲して流れており、河道沿いにはヤナギ林のほか、ミズナラやケヤマハンノキ、クロビイタヤ等の広葉樹の河畔林が見られる。このような山付きの環境には、エゾシカやエゾユキウサギ、エゾサンショウウオなどが生息している。また、河床勾配は1/1,000から1/500程度とやや急なため、河床材料は礫が多く見られ、トビケラ等の水生昆虫類が豊富である。魚類ではエゾウグイ、ハナカジカ等が生息し、サケの産卵床も見られる。



エゾシカ



クロビイタヤ



エゾウグイ



サケ

## 【鷓川下流域】(KP13.0~KP1.6)

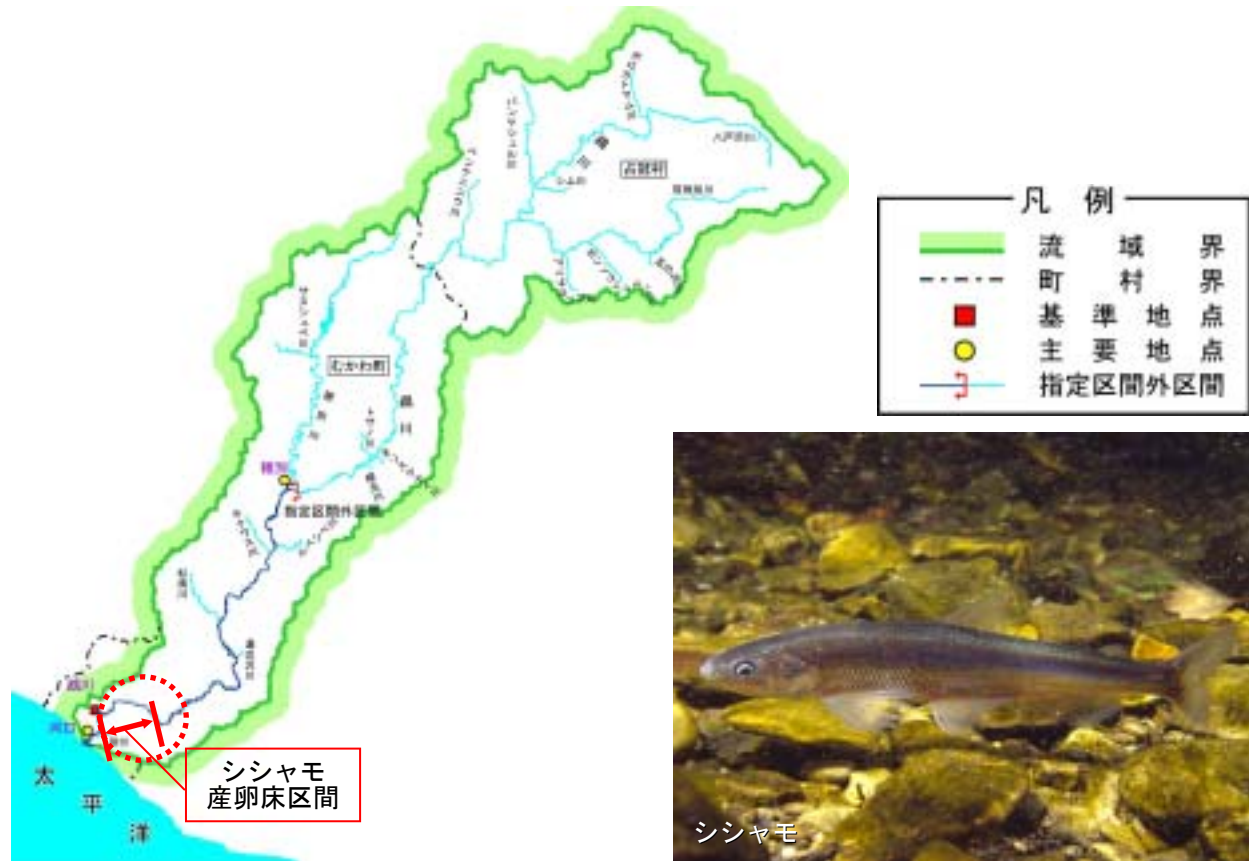
- ◆川西頭首工からKP1.6までの下流域は、田園地帯を緩やかに蛇行しながら流れる。高水敷は広く、ヤナギ類の河畔林や、オオイタドリ、オオヨモギ等の草本植生が広がっており、カラフトアカネズミ等の哺乳類や、カワラヒワ等の草地性鳥類が生息している。また、砂州が発達しており、砂礫堆にはカワラバッタが生息している。魚類では、エゾハナカジカ等の回遊魚が生息しており、水産上重要なサケやシシャモの産卵床が見られる。



カラフトアカネズミ



カワラヒワ

シシャモ  
産卵床区間

シシャモ



## 【鷓川河口域】(KP1.6～河口)

- ◆KP1.6より下流は感潮域となっており、河口部には海岸砂丘および干潟が見られる。海岸砂丘部にはハマニンニク等の砂丘植生が見られ、干潟ではハマシギ、セイタカシギ等のシギ・チドリ類が渡りの中継地として利用している。また、秋から冬にかけては、餌を求めてオジロワシ等が飛来する。魚類では、アシシロハゼ等の汽水域に生息する魚類が見られる他、秋には水産上重要なシシャモが遡上する。



ハマシギ



オジロワシ



凡 例	
	流域界
	町村界
	基準地点
	主要地点
	指定区間外区間



アシシロハゼ



# 干潟保全対策工

◆ 「わくわくワーク・むかわ」の参加者や学識者との意見交換を交え、侵食対策を実施している。



干潟保全対策実施箇所と全景  
(平成17年6月6日)

配慮する  
ポイント

- ・ 現存する河道内の干潟と再生した干潟
- ・ 渡り鳥の採餌環境と休息環境
- ・ 魚類の遡上や降下およびシシャモ産卵床  
海浜植物などの河口自然環境
- ・ 経済性、持続性等

対策(案)  
の概要

- ・ 河口テラスを左岸河口海域に形成(水制  
工の設置)
- ・ 沿岸漂砂の復活(サンドバイパスの継続  
的な実施)

期待される  
効果

- ・ 海岸侵食の防止
- ・ 採餌場(人工干潟)と休息場(草地)の侵食  
の防止
- ・ 汀線の回復により、かつての干潟が自然  
に復活・再生

人工干潟



# 鷓川の河川景観について

- ◆ 鷓川流域は、全流域の約8割が森林で占められ、秋の紅葉をはじめとした自然景観に恵まれている。特に上流部の赤岩青巖峡や中流部の福山溪谷等、見ごたえのある景勝地が分布する。流下するにしたがって、本川のせせらぎは周辺の田園景観とよく調和する
- ◆ 下流部のむかわ町市街部では、河川空間および周辺に田園風景が広がり、また市街地周辺の河川敷にはたんぽぽ公園が整備される等、親水性に富んだ水際空間が構成されている
- ◆ 河口部は、広がりのある河川空間と太平洋の海岸線および干潟等で構成される





# 河川空間の利用

◆ 鷓川は広大な河川空間を有しており、特に河川敷地は水面および背後地の諸条件により、その地域のニーズに適応した利用がなされている。自然のうるおいとやすらぎを得られる重要なオープンスペースとして、むかわ町市街部や穂別付近の高水敷で公園整備がおこなわれ、盛んに利用されている

◆ 河川の利用については、ラフティングや釣り等、広く利用されている。さらに、市街地付近ではお祭り等の河川空間を利用したイベント等もおこなわれている







植樹活動



植樹活動(ハマナス移植)



河川清掃



河口清掃



カヌー体験



水辺ウォッチング(底生生物調査)